ちゝ仲

中村俊定文庫
文庫 18
398

宮内省圖書寮

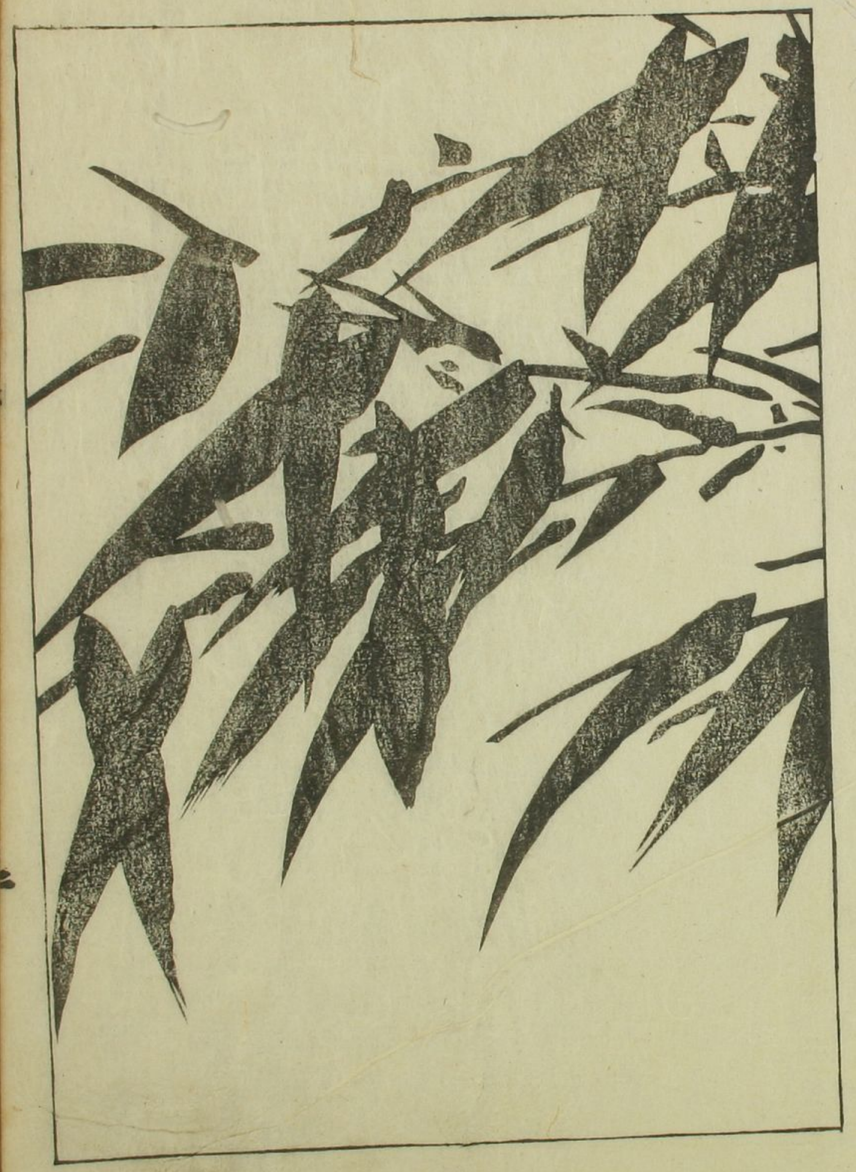
中村保定文庫

○興ゝの作る一画一章も古歌乃出端と
成江桜殘る雨おのゝ[illegible]つゝ新字し
猶りめゝをさちゝ[illegible]ゝ春鶯等
○一句一吟も思変又はらわれ門葉まして
多くハ古躅のゝ人ゝ[illegible]
○遠を乃句ゝ中ゝ[illegible]せて他人のも
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ又[illegible]の友ゝ[illegible]

或る神路乃きこえ過てとゝに格藤の
此をきゝす
○後の一巻ハ納涼の出会のうらゝ演るゑに
むの発と傳りて志ゝく徐事を志ゝしむ

古学庵
執筆

同人ちゝ茅舎を
ゝゝひ
芳輝ゝ竹
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ



訪陶門

仮の住ゐハきものつゝこるゐの雪千歳
きち浦浪を枕とし社中の交情水乳七
月々に苦くるしき命の邪魔千面凡乃
虚実を味へ近ぶのるちやハ又流川の
臺所きへ——

俳諧のけもきもしれすー　梅富

何ともいはぬ友のまと　し兒
ものゝやさしき中千つきして　古夕
亘屋の小子秋のちゝ　菓合
丈夜とハ二あの月千思ひ　之遠
下屋敷ゝ紅葉ちる　松宇

後鳥羽院御歌合秋の風　山家
左戸の出来て皆を住　雲家　二条
ふるさとやらは書付て系後　長楫
茅研て峡をとへおはなす　重後
西月の宮うきへまるうく　及羽
四神さ面の影もうく　十覚
はりうる捕もあひも無の所　赤坂
西かりはハ赤ゝ所　金字

鞍馬は鳥を撰んとて　反長
彩さ限て光る　白砂　白砂
木の葉花ハ桜と思ます　東浦
治てもあ　布ふる　菜明
名代もきふハ世を迎ふ　文耕
塗の代報ひも　つ　元　重貞
さしたしお師のあも二日　買山
ゑれハるのうん　世り　夜桂

雛をえて池きりつぶてうゝ　初秋

夫のなうちの手夫と　白樵

つけかと鉢籠うえて　時うハ夫　左柳

勅使乃ゝとゝ　只ひとり　旅之枝

西川のきいをするてハるゝ　曰乎

行ゝ〳〵と　佐ゝ　十様

出る自ゝ雑役ゝ　敵左

ゑんま系の嘘ハつゝ　四　古調

拾翠　かりと　恒を　聲ゝ　把き

ゝ　仏　一　本体の　小味　寸平

言〳〵と　例の　山　晴ゝ　屋俗

系ゝ　ゝ　舟の　出ゝ　柳文

住ゝ　花の　ゝと　引ゝ　夜笛

変ゝ　つゝ　ゝ　ゝ　蛙言

白踏るう竜うち〳〵 富士詣 洞水
開るしまの市〳〵 杉の苔白ず 三造
変るそれてもたれ風や初鶯 六ヶ
夏菓や九日小袖も同て 南浦
夏の洗ふ濁も定て清水が 松字
ミそ〳〵千さ風て見るうつさず 石水
秋先千ちふや六〳〵牛 白略

かゝ寒や打角同〳〵又ぬる 六友
よしめや 指てハひらふ水〳〵 長梢
ヤ〳〵此夕そうすそもも 統 紅 重貞
踏まやちぬやまと 羽つくろ 友長
十稔香をちふて 啼夫うやり 知秋
白弁ふや 迫〳〵 縄うつけ 井桔
踏まや 陟三 〳〵 菓略

面影は変らぬものを　文峯

見ぬ春あふのゝ園やほとゝぎす　同

八重咲千葉礼竜蕊の花葉より　三枝

春の夜ねの庵千二帰　素花

雲の谷やゆきの間ゝ咲て　春峰

懐中物入くゝ見世ゆるもゝく　敲左

水晶の名ゝけて清水の軍　釈卧柳

夕ちやまゝぬ水ゝ橋　佐信

夕風千扇流さんこゝろ川　蕙部

面影をしゝてちふやけ一ぬ　楚雀

垂柳やゆき折しの夏ちんる　夜柱

人言の水千流るゝすゝの軍　さゝき

面の板を田毎千咲るや飛ほるる　芝峯皐

夕月や葉も一月んのもゝ咲　牛邨

雲仙やゆゝ咲ゝ山千めゝ出水五月　人

訪ふ人のきて音まや言の葉　物分

ほのぼのハ夜のあけぬる蓮の葉　大隅

蓮や濃さめ野　咲きそめ　河州

向へハ雨ちる橋やかなつち　東尾

所市もあれまれにやあのの　朱雀

屋ハ土ちるぬ音庵　翠紅

高き机千畳やうなつち　抱雪

盥のおへハ雨ちる荷子　垂童

蓮や孫と孫と逝て咲　重陽

世ハ二階て酒や　杜字　園程

情ーいとて仇も雨ぬく蓮の花　茅屋舎

小雨や富士千畳ぬ礼野　裾も冠　柳巷

縄すれ山かけるる言ひ永柳　柳石

芽ちるやまる妻　牧の蝶ひとり　長江

きぬてハ咲きぬハ又ちるかなが　白羽
雪の景須弥もうてていちるなり　俊江
ゆるもちやひら枝ぶりの重のまゝ　橘児
嶺ちかハ雪ぶりてうぶ雅のむ　菊邨
世ゝ和を返ものなきなり　陂暁
多夜千ちよ赤食も知雅なり　有儀

雪雅のうゝろ千脚るうちハが　巨舟

蜻蛉や糸ぞ来る而まゝ　十茂
却ゝ和列ぞてゝ又ゝかなつたる　東姑
蝶も来て扇ゝ世やけゝのむ　し乃
雪史て出ゝ来る清水の事　二毛
書堅や来田千代を金三千　重信
咲ぬ日も浪てゝ見るさゝが　及羽
ゝ紅千ハ雅てゝ行りを塗ゝが　菜八
すゝさぬ世ぬ遠ぬ橋の反　金宇

仙をしけ志四人ハ春の雪　文耕

春霞やしゐハ茅子咲も せる　素伝

川辺も人も交りすゝこの事　蘆琴

色の白やはの片つれも雪を出る　白梅

和のむや去年春も一さくら　六象

むす子嬉めお牧孝ひ一回まる　芹水

鶏つるひやゆるい色を鶏まる　方柳

すゝさやはの筵子ゆゆも山も　貴山

夫を手ゝ水鶏子供一うせ春り　曰主

夕うはや蔓を主と咲てゐる　古調

業つゝ水ゝ養主の労をはつふ
主の新子子行を入三

ゑ行のきの花入子ゆうつ一春り　蛙言

はゝ春ハ二春ゆ年ゝさめ春り　乃砂

夜鶏の体世ゝ子もも一主の春　寸玉

つの牛やあいひ子ふ風の　き　年之

主さゝ子挑て春りけ一世　柳文

ますらを橘の香や射まくら　サ　花夕

見すぐハまさあのぬぬのゆうぎり　サ水

ふかも見ハなるん大とり　虫十様

言伝千和尚　きりぎりす　夜笛

仁橘や男を入ぬ姫ひとへ　伊豆　紀米

夕ゝゆやゝ中　紀姫千咲ちる　椿子

見ハ春ぬまるゝ　て金く咲るず　東鳴

風二条の香や扇之金きりひ　別舟

入道賀

夜ちる四月重ね花の出まふ限　水湖

夜まま春ゝの流ゆつさず　相模　麦田

折橘千秋ゝ　ゝさ橘之かきつたる　甲斐　渭水

一日の菜を　おうハけ　ゝの菜　陸奥　丈芝

仏ゆも一度ハ沼る　春　伊う南　東京　六窓

咲ぬ百ハちけきせ麦や月ゝ麦ゝ　黒春

ひとすまるいはすせる 鍾の車　越中 白玉子

鶏うの日や蒼むくこはせるしと　玉斧

芭蕉葉やまりなする 月も冴る　百蓮

ちりとして鶏の日をたてる柳ず　武蔵 芳半

かくすへきもの雑子の夢　加賀 素園

傾城の文をなてる かんさる　尾張 也有

7の帖や月も片つ袖うつ川　紀友

山吹や笠もひとえむの傳　南空

すうちすのよ欲ひりはとすす　八垂

をのちよ理すちるや 杜宇　多申

枯はまとえうと義すちるず　木兒

日のうちすー夜ハ霜ふりさ月雨　東路 多碎

ましめやほるさいはさ柱てり　秋斤

糸足に浮ふて見ゆる田うへかな　門夢
丹誠をこめ水まして氷室かな　巻何
一日此盞をとりかはす夕すゞみ　止信

包みし石のすゞしさよ山清水　米光
うすいろも惣られ華ぞ女郎花　羽象
三条此二更府内うかり切るしぐれかな　白斗
下闇の這入口あり夜の雷　雷堂

かゝるある荒る野分かな　吐月
簾の雨ては角ちらすゝし柳かな　這雲
紫陌や押合ふ旅の友ちどり　南雅
夜くもう新うき草の柳かな　撰石
見するもと紺は扇の一葉かな　め雷
初秋やまさりられず家は行　桃弓
海棠やまだ見ぬ美人も田はかゝ　桃読
野と山と海とつれて後の月　巴中

炉ひらきや四月かすの二雇の日　枝貞

火ケ入る夜寒や蜜柑の虫の声　嵐夜

寒もちの傍ケ鶏のつま　血仗

入おけ中して居るくるの声　沾圭

ふるやちや此夏の彩情　祇什

ふるると出て月ケ多ける踊ず　也筆

月此夜ケ毛やまの雷　書布

蕎麦ふすケ欠ふる后の月　重如

枝て行る書さし舟や弩ケ行　蓼旦

下戸へ寄る行ふさみ風や后の月　花洞

音ふる影ハ菓ケふるひらず　眠味

寒さふや孫の中ケ家ひふる　也

寒をこそ美尺ふ笑ふかへりむ　万古

ふ良をふ乳てハ行なまこず　後内

惜ひふ一ふふ変ふる　除乃

隈ふ美ハ月ケ行ふ月や　郁乃

周竹

[illegible]の[illegible]や[illegible]頭も[illegible]　吳竹　徳山

[illegible]さ[illegible]や[illegible]の[illegible]　子年

[illegible]ハ[illegible]も[illegible]千世用ン　[illegible]

[illegible]の戸へ[illegible]雜ず　金魚

人[illegible]　[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]　山兒

[illegible]や[illegible]日[illegible]

立[illegible]古[illegible]の[illegible]　蓼太

笠の[illegible]千[illegible]て、

[illegible]の[illegible]も相坂[illegible]る　吳

[illegible]萩[illegible]の[illegible]の[illegible]、

[illegible]や[illegible]を織[illegible]や[illegible]　太

卯月の初ハ[illegible]入る古[illegible]
[illegible]西[illegible]おほつ[illegible]
の[illegible]雖[illegible]六花菊を[illegible]
中[illegible]のゆ[illegible]へる里ハ[illegible]一富士の
[illegible]二[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

六花主人[illegible]二[illegible]
[illegible]師をすめ[illegible]
風[illegible]不二[illegible]
[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

不二川の月を
九月の送詠も墨出ず

旅ゝ世川者の夜ゝ　山児

富士川地蔵を対をすゝり　麻父

牌下

落ゝ夜の月おてゝ雲ゝ　乙児

橋ゝ成うゝてハ牡ゝら　雪後

恙ゝ琴ゝ舟路を東ゝ礼来て　蛙音

今ゝ世苗字をゝ世ゝ　し乙

雲ゝ雨ゝを狂うゝ　左柳

長ゝ彩の行ゝ世板　一本　六個

何世かとの神を思ひ出ること　及羽
をいそ八ちく醫者の方　角　二毛
強くめ奇のすくこも小むくれ　買山
今何ふ坂の関ハちけれと　素姑
何くれく牛八童為りかてこ　曰平
暑く中　く盆の年くる　児
いひとく遠ものくて松の月　後
ものく農牛ハ蔓すもく　素

苔のちん秤をふも為ーさ　及
既角くいハ毋へ知くさ　栃
蛙ーを白のむたきち　蘭皐
見てーたは和くまる　羽
さをハる春のを遠若先ち　調
何を哉くまる板を眞　平
世くハ又ちくの旅美在　姑
未をのさくれんてち　山

漣のよるしをやうちよせて　毛
巴か墓も皆さくらの　左
以陀や乃露もうつゝ比の果　壱
人の付さ唐茶一つく　後
槙戸ハ主人への底に梅のきす　梅
狸に成く夜ゝ明二年たる　調
池水に月も踊も流ふすて　児
行ち吾懃やあ寄のころし　始

刈られし萩をゆ風へ一　羽
此蜷めしは頭のかくまし　毛
朝起に家の機嫌を知継ける　手
とふ雲ふても小舟の川もとく　山
咲ものゝこそも驚此尼つけて　竹卧
蝶のうつゝ此村もよるも　執筆

名窓説　　陶乙児

今さの事ゝ名けて吉日を撰ハ支
ゆきゝの人を除山木ゝ二事又ゝ樗の
皇を支ゝ嗚呼この事亀むすゝも物し
面ゝりセハ只ゝ杉きゝ此使ゝ事りたて
禅井ゝり可惜一椀茶投ゝの此語て風塵
をのゝしひゝて風ゝのやりてゝ成る右ゝ

蓮社よゝ紫の戸此月やゝゝきゝ材
ゝ世も杉ゝの光をゝけて家て世ゝを
ゝ当るとゝ也ゝ此ゝ六花の二字ハ水ゝ此
囊ゝ家ゝゝゝゝ山ゝゝ雪も可ゝ此支
ゝゝたのゝ居　家て系ゝハあゝゝ
ゝ家も物支世付支仮て安楽家の號ゝ人
又ゝゝ乳ゝゝ此ゝ

宝暦壬午六月吉

書林

京二条寺町上ル所
井筒屋庄兵衛

江戸日本橋二丁目
戸倉屋喜兵衛

豆州三嶋宿
松本　久右衛門